

献血いただく前に

献血される方の安全と患者さんが安心して輸血を受けられるよう、受付確認票に記入する前に、「お願い!」パンフレットが渡されます。輸血を受ける患者さんに安全な血液製剤を届けるため、また、安全に献血するために以下は重要な内容ですので、生徒に指導する際の参考にしてください。

献血いただく前に

献血いただく前に、これをよく読んでいただき、了解された上でご記入いただきます。

●献血前に

- お名前、生年月日、住所、電話番号などは正確にお書きください。
- ご本人の確認のため、運転免許証などの提示をお願いします。
- 問診項目には正確にお答えください。事実と異なる回答をされた場合、輸血を受けた患者さんに深刻な状況をもたらす場合があります。
- プライバシーは法令を遵守し、適正に取り扱います。
- 献血後に高所作業や激しいスポーツ、自動車の運転等をされる方は献血前にお知らせください。特に乗り物の運転をされる方は、献血後に十分な休憩(30分以上)をおとりください。
- 献血に伴う副作用予防のため、献血前に水分(スポーツドリンクなど)を補給してください。

●献血時は

- 200ml・400ml 献血では10分から15分程度、成分献血では体重等に応じて採血する量(上限600mLまで)が異なりますので、40分から90分程度の採血時間がかかります。
- 血圧や血色素量(ヘモグロビン濃度)を事前に測定します。
- 採血針や採血バッグなどは、お一人ずつ使い捨てとなっています。

●採血副作用と注意

採血中や採血後に、気分不良、吐き気、めまい、失神などが約0.9%(1/100人)、針を刺すことによる皮下出血が約0.2%(1/500人)、神経損傷(脱力や痛み)が約0.01%(1/10,000人)程度の頻度で発生します。また、失神に伴う転倒がまれに発生する場合があります。

- 採血針を刺した箇所に針跡が残ることがあります。
- 針を刺した時に、強い痛みやしびれがある場合は、すぐに職員にお知らせください。また、皮下出血等も我慢せずにお知らせください。
- 採血中に気分不良やめまいを起こした場合は、立ち上がりず、そのままの姿勢ですぐに職員にお知らせください。また、採血後に同様の症状を起こした場合は転倒を防止するために、すぐにしゃがむか横になってください。
- 献血によって健康被害が生じた場合、医療費等を補償する献血者健康被害救済制度がもうけられています。くわしくは、血液センター職員にお尋ねください。

●献血いただいた血液は

- ごくまれに献血いただいた血液が採血装置などの不具合・不良により輸血に使用できなくなることがあります。
- 次の検査を実施し、すべてが輸血に適すると判断された場合のみ輸血に使用します。
 - ・血液型(ABO型、Rh型、HLA遺伝子型等)、不規則抗体、梅毒、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス、HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス-1型)、ヒトパルボウイルスB19、ALT(肝機能)
- 必要により、赤血球型、白血球型、血小板型や血漿蛋白の遺伝子検査を行う場合があります。なお、その他の遺伝子検査が必要な場合はあらかじめご本人の承諾を得て行います。
- 献血いただいた血液の一部は、輸血副作用・感染症などの調査のために少なくとも11年間冷凍保管しています。
- 献血いただいた血液は、血液製剤の有効性・安全性の向上と検査法の向上のための研究や、安全な輸血のための検査試薬の製造など、輸血用以外の目的に有効活用させていただくことがあります。